

## 児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむ指導の工夫 ～プロジェクト型外国語活動を通して～

南城市立佐敷小学校教諭 具志堅惣敏

### I テーマ設定の理由

近年、政治・経済、文化など、様々な側面において、従来の国家の枠組みを超えて、地球規模で情報のやり取りが行われている。また、異文化の人々が身近に存在し、共に生活したり働いたりするなど、グローバル化に対応するスキルが必要になってきている。文部科学省は、『国際共通語としての英語力の向上に関する5つの提言と具体的施策』の中で、このようなグローバル社会を生き抜くために児童に求められる力は、異なる国や文化の人々と外国語をツールとして円滑にコミュニケーションを図ることができる能力であると述べている。

現行の小学校学習指導要領解説外国語活動編（以後、本文では「外国語活動編」という）で、外国語活動の目標を「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」と示している。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、「児童が使える外国語を駆使し、さまざまな相手と互いの思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験することが大切である。」と示している。そのことから、児童が積極的にコミュニケーションを図るためには、言語や文化についての体験的な理解に加え、子どもが聞きたくなる、言いたくなるような意欲の高まる題材を選定し、授業において、児童が聞く・話す必然性のある場を設定する必要があると考える。

これまでの実践を振り返ると、児童の外国語への不安を取り除き、児童が新しいものへ挑戦する気持ちを育み、失敗を恐れずに外国語を使う雰囲気作りを力を入れてきた。本校の児童は、外国語に対してほとんど抵抗がなく、ALTの発音を聞き元気よく真似て発音している。しかし、お互いに情報を伝え合う、聞く・話す必然性がない「聞くこと」や「話すこと」のパターン・プラクティスやダイアログの反復練習が活動の中心だったため、実際のコミュニケーションが形式的なやりとりとなり、「もっと話したい」「こんなことも言ってみよう」など、児童の自発的な思いを基にしたコミュニケーションになっていなかった。また、一時間一時間が単発的な活動で、単元を通じた繋がりを持たせていなかったため、児童が活動の見通しを持たず、目的を持ってコミュニケーションをすることができていなかった。

そこで本研究では、外国語活動において、プロジェクト学習を活動に取り入れ、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむ指導の工夫を行う。児童が実際に会話する場やグループで話し合って創作する活動など、聞く・話す必然性のある場面を設定することで、児童に自発的な思いが生まれ、積極的に伝え合うようになると考える。また、単元のゴール（プロジェクト）を明確にすることで、児童が活動の見通しを持ち、課題を解決するために、既習の外国語を用いて積極的に話すようになると考える。

以上のことから、聞く・話す必然性のある場面の設定の工夫や単元のゴールを明確にしたプロジェクト型外国語活動を展開することで、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説と検証計画

#### 1 研究仮説

外国語活動において、プロジェクト型外国語活動を展開することで、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむことができるであろう。

## 2 検証計画

事前調査のアンケートや先行授業から児童の実態把握を行う。それを基に検証授業を5時間行う。プロジェクト型外国語活動を展開することにより、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しんでいるかどうかを毎時間の児童の様子や児童の自己評価、授業後のアンケートや感想で比較・検討する。

| 検証授業の対象：南城市立佐敷小学校5年1組（33名） |  | 検証の方法   |
|----------------------------|--|---|
| 事前調査                       | ○児童の実態調査の実施<br>平成28年11月29日（火曜日）（5年1組）  | ・事前アンケート分析<br>・児童の感想                                    |
| 先行授業                       | 単元名：オリジナルの絵本を作ってクイズをしよう<br>第1時 単元のゴールを明確にし、見通しを持たせる。<br>・絵本「Whose Nose and Toes?」の読み聞かせを聞く。<br>・ゴール「オリジナル絵本を作り発表しよう」を知る。<br>・既習事項を振り返り、発表で使う表現を知る。<br>第2時 グループで絵本作りをする。<br>・登場する動物と見せる体の部位について話し合う。<br>・絵本を作る。<br>第3時 クイズ発表会の練習をする。<br>・グループで協力して練習する。<br>第4時 オリジナル絵本でクイズ発表会をする。<br>・感想を交流する。                                  | ・授業観察<br>・児童の感想<br>・ワークシート                              |
| 検証授業                       | 単元名：オリジナルスキットを作って発表しよう<br>第1時 単元のゴールを明確にし、見通しを持たせる。<br>・デモンストレーションを見る。<br>・既習事項を振り返る。<br>・グループでスキットの場面を考える。<br>第2時 シナリオを作る。<br>・場面、登場人物、役割分担を考えながらスキットを作る。<br>第3時 オリジナルスキットの練習をする。<br>・グループで協力して練習する。<br>第4時 オリジナルスキット発表会のリハーサルをする。<br>・アドバイスを受けて改善し、スキットを完成させる。<br>第5時 オリジナルスキットを発表する。<br>・グループ毎にオリジナルスキットを発表する。<br>・感想を交流する。 | ・授業観察<br>・児童の感想<br>・ワークシート                              |
| 検証授業                       | 検証の観点(1) プロジェクト型外国語活動の展開により、児童が積極的にコミュニケーションを楽しむことができたか。<br>検証の観点(2) これまで学習した英語表現を活用して、会話を楽しむことができたか。  | ・授業観察<br>・ワークシート<br>・授業ビデオ撮影と分析<br>・授業後のアンケートと児童の感想（分析） |
| 事後調査                       | ・事後アンケート<br>平成29年1月31日（火曜日）（5年1組）  | ・事後アンケート分析  |
| まとめ                        | ・外国語活動において、プロジェクト型外国語活動を展開することで、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむことができたか。   | ・事前事後の比較分析<br>・結果のまとめ                                   |

### Ⅲ 研究内容

#### 1 外国語を通して一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむ指導の工夫

##### (1) コミュニケーションへの積極的な態度とは

外国語活動編によると、コミュニケーションへの積極的な態度とは、「日本語とは異なる外国語の音に触れることにより、外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとしたり、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら、積極的に自分の思いを伝えようとする態度など」と示されている。つまり、外国語を通して積極的にコミュニケーションをするとは、外国語（英語）をツールとして使い、相手の思いを受け止めながら、自分の思いを積極的に伝えようとする態度だと捉える。

##### (2) 積極的にコミュニケーションを楽しむ児童を育むためには

外国語活動編には「児童が使える外国語を駆使し、さまざまな相手と互いの思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験することが大切である。」と示されている。つまり、習った外国語の表現を使って自分の思いを伝え合う体験をし、伝わる達成感を味わいながら積極的にコミュニケーションを図る姿を、児童がコミュニケーションを楽しむ姿と捉える。

渡邊(2011)は、「児童生徒の『積極性・主体性』を育むためには、課題解決型コミュニケーション活動を通じて、グループ内で協力し合いながら一人一人が積極的かつ主体的に取り組むことにより、各自の責務を果たすことができるような体験活動を計画し実施するとよい。課題解決がなされたときには、各自が成就感と仲間への感謝の気持ちを抱くことであろう。その結果、仲間に対して『ありがとう！Thank you.』という言葉も自然に交わされるであろう。あいさつや感謝等のソーシャル・スキルは実践的なコミュニケーション体験を通じて育まれる。」と述べている。

そこで、本研究では、第1時に解決すべき課題を単元のゴールとして提示し、お互いに情報を伝え合う、聞く・話す必然性のある場面を設定する。また、単元のゴールを明確にすることで、児童は目標達成に向かって主体的に活動し、より積極的にコミュニケーションを楽しむと考える。

#### 2 プロジェクト型外国語活動について

##### (1) プロジェクト型外国語活動とは

プロジェクト型外国語活動（東野・高島）とは、「コミュニケーションをしなくてはならない場面を設定し、児童・生徒が自発的に英語を使いたいと思うような状況を設定し、発表などを通して結果として言語習得がなされることをねらっている。」活動である。つまり、普段日本語で会話している時のように、実際に会話をする場面を想像させながら体験させる必要がある。聞く・話す必然性のある言語活動の中で、児童は自分の思いを伝え合うことを何度も体験する。そうすることで、言語を習得していくと考える。

また、東野・高島(2007)は、プロジェクト型外国語活動の特徴を以下のようにまとめている。

- ① 活動に、与えられた（あるいは見つけた）解決すべき課題（タスク）があり、この課題を解決する過程の中で、児童たちは、必要な活動を選択し決定していくため、必然的に主体的・創造的な学びが生まれる。
- ② グループ学習、ペア学習、異学年交流などを通して、児童は共同の学びを体験できる。
- ③ 課題を解決するという活動のゴールがあることで、児童は、明確な目的意識を持ち活動を進め、活動への興味を持続することができる。

つまり、児童にプロジェクト（課題）を解決するという目的意識が生まれ、単元を通して学習意欲を持続しながら児童が主体的に学ぶようになるかと考える。よって、プロジェクト型外国語活動を通して、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむことができるように指導を工夫する。

##### (2) プロジェクト型外国語活動の指導の効果

東野・高島(2011)によると、プロジェクト型外国語活動において、「まとまった単元として活動していくことは、児童にとっても意識や思考が連続し、活動に対する見通しが立ち、自分が、今、

単元全体のどこを学習しているのか、何をしなければならないかなどが、より明確になり主体的に学ぶことができる。」さらに「コミュニケーションへの積極的な態度を育て、興味・関心を喚起し、意欲を高めることに、より重点が置かれることになる。」と述べている。

本研究では、単元を一つのプロジェクトとして捉え、単元のゴールを「オリジナルスキットを作ろう」と設定する。そのことにより、児童は、「どんなスキットにするか」「どんな場面にするか」「誰を登場させようか」「どんな会話にしようか」など、積極的に話し合いを始め、既習の英語表現を駆使して、実際の場면을想像しながら、自分たちでコミュニケーションを組み立てて意欲的に活動していくと考える。そして、プロジェクト達成を目指す過程で、「こんなことも言ってみよう」「こんな会話を入れたいけれど、英語でどう言ったらいいんだろう」など、児童一人一人が、自発的に思いを伝え合いながら、積極的にコミュニケーションを図ることが期待できる。

### (3) プログラム学習を基にしたプロジェクト型外国語活動

東野・高島(2007)は、「主体的・創造的なプロジェクト型の活動を進めていく中で、表現の提示、表現の定着のための練習などには、プログラム型の手法を使うことが有効である。」と述べている。

本研究では、これまで行ってきた授業（プログラム型）に、単元を通して解決すべきプロジェクトを加え、プロジェクトを解決するために必要な英語表現を各活動に取り入れる。



図1 プログラム型学習

そして、プログラム学習の中で、チャンツや歌、ダイアログの暗唱、ゲームなどを通して英語表現に慣れ親しませる。更に、児童が十分に慣れ親しんだ英語表現を活用してプロジェクトを達成できるようにしていく。つまり、従来のプログラム学習を基盤に、プロジェクト型外国語活動を展開することで、子どもたちがより積極的にコミュニケーションを楽しむようになると思われる。

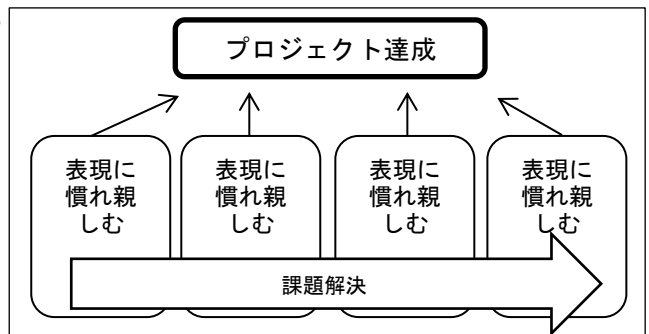


図2 プロジェクト型学習

### (4) プロジェクト型外国語活動の授業の流れ

プロジェクト型外国語活動の流れは以下のとおりである。

- ①課題を設定する。  
(例)「日本文化を紹介しよう」
- ②たくさんの日本文化の中から児童が個人やグループで紹介したいものを一つ選ぶ。  
(例)「書道を実演しながら紹介しよう」
- ③日本文化について調べる。
- ④紹介する時に必要な英語表現を練習する。
- ⑤日本文化を紹介する準備をする。
- ⑥プロジェクトの発表と評価をする。

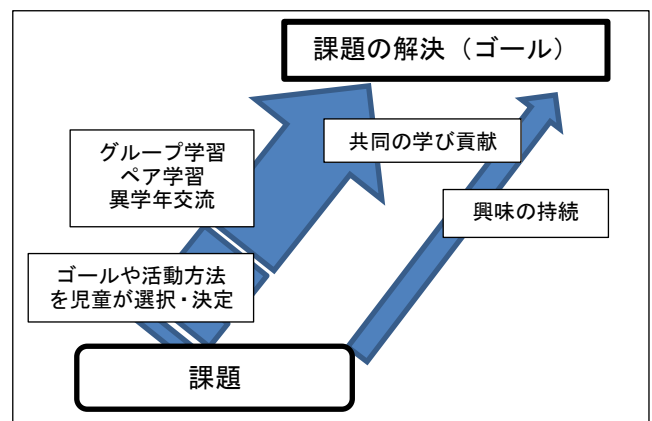


図3 プロジェクトにおける授業の構成と流れ (東野・高島, 2007)

この①～⑥の活動を通して、東野・高島(2007)は、「児童自ら調べたり、場面や登場人物などを選択したりすることを通して、主体的な学びが生まれる。また、グループで協力し合ったり、学級で相互評価し合ったりして、よりよいものを作っていく中で『共同の学び』を体験することになる。最終的なゴールが明確であり、自ら決定したものであることから、活動の最後まで興味が持続することになる。」と述べている。つまり、単元全体を通して課題解決に向けた活動を行うことで、児童が主体的に活動し、仲間と話し合っ課題を解決していき、共同の学びになると考える。

## IV 検証授業

### 1 単元名 「オリジナルスキット（寸劇）を作って発表しよう」

### 2 単元設定の理由

#### (1) 教材観

本単元は、オリジナルスキット作りを通して、児童が主体的に場面を設定し、その場面でどんな会話をを行うか想像しながら、自分たちが表現したいスキット作りをする。実際に演じ、気持ちを込め、ジェスチャーをつけて表現することで、コミュニケーションを楽しむ体験をさせることがねらいである。また、児童がこれまでに学習した表現を駆使して、互いの思いを伝え合いコミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験させることをねらいとしている。児童が主体的に創作したスキットを演じることでコミュニケーションを楽しむことができる単元である。

#### (2) 児童観

表1 事前アンケートの結果

| アンケート項目   | 好き<br>どちらかと言え<br>ば好き<br>できる  | 嫌い<br>どちらかと言え<br>ば嫌い<br>できない |
|---|--|------------------------------|
| ①外国語活動は好きですか。   | 89%  | 11%                          |
| ②英語を聞くことは好きですか。   | 85%  | 15%                          |
| ③英語で話すことは好きですか。   | 64%  | 36%                          |
| ④前時に学習した英語表現を次の時間に言うことができますか。   | 3%   | 97%                          |
| ⑤外国語活動で好きなことは何ですか。<br>※複数回答<br>ゲーム・・・29名    チャンツ・・・19名<br>英語で会話をする・・・9名<br>歌・・・8名    グループで話し合い・・・8名 | ⑥外国語活動で苦手なことは何ですか。<br>※複数回答<br>英語で会話をする・・・19名<br>自分の考えを言うこと・・・10名<br>発表・・・5名    歌・・・2名 |                              |

外国語活動において、本学級の児童は、男女関係なく活発に活動することができ、外国語に対してほとんど抵抗がない。学習した表現を使ってペアやグループで活動する時も、楽しそうに行っている。しかし、外国語に関するアンケートを行ったところ、英語で話すことが好きな児童は64%にとどまり、97%の児童が前時に学習した英語表現を次の時間に言うことができないと答えた。また、「外国語活動で好きなことは何ですか」の問いに「ゲーム」と答えた児童が最も多く、反対に「苦手なことは何ですか」の問いには「英語で会話をする」が最も多かった。これまで楽しく活動しているように見えていたが、英語で会話することに積極的ではないことが明らかになった。更に「外国語活動でやってみたいことはありますか」と質問したところ、「グループで何かを作って、英語を覚えて発表してみたい」という回答が多く、自分たちで考え活動したいという思いを持っていることがわかった。これらのアンケートの結果から、これまでの実践が、教師主導で活動を行ってきたため、児童が英語を伝え合う楽しさを味わうことができず、積極的なコミュニケーションに繋がっていなかったと考える。そのことを踏まえ、本研究では、教師主導ではなく、児童主体の外国語活動を展開し、単元のゴール（オリジナルスキット発表会）に向かって活動するプロセスを通して、コミュニケーションを楽しむ体験をさせ、英語で伝える喜びを感じることができるようにしていく。

#### (3) 指導観

本単元では、「児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむ」ことを目標に指導していく。

児童が積極的にコミュニケーションを楽しむためには、英語でのコミュニケーションが楽しいと感じさせることが大事である。そこで、毎時間 Warming up で「児童間コミュニケーションタイム」と「教師とのフリートーキング」を設定し、児童が相手意識を持ち、思ったことを英語で自由に言える場面を通して、英語でのコミュニケーションの楽しさを味わわせる。

また、単元のゴールに「オリジナルスキット発表会」を設定する。今回は、これまで慣れ親しんできた英語表現を振り返り、その英語表現を活用してグループでスキットを作る活動を行う。これまでの英語表現の復習を交えながら、発表会に向け、グループで話し合い、創作する活動を毎時間入れていく。児童は、始めに英語表現を使う場面を設定し、その場面に合った会話を想像する。会話を作る中で「こんな言葉を入れたら、もっと会話が楽しくなるんじゃないかな。」など思いが膨らんでいくだろうと考える。その場合は、ALT と担任で簡単な英語に変換して、児童が伝えたい思いを大切にしてスキットを完成することができるようにする。このように、単元を通して、児童が聞く・話す必然性のある場面の設定や単元のゴールを明確にしてプロジェクト型外国語活動を展開していく。

本単元では、プロジェクト型外国語活動を展開し、ゴールを設定し、その課題達成に向け、自分たちで考えたシナリオを基に、児童が積極的にコミュニケーションを楽しむことができるようにしていく。

### 3 指導目標



#### (1) 外国語活動の目標






- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

#### (2) 単元の目標

これまで学習した英語表現を用いて、児童が自ら場面を設定し、会話を想像しながら話を組み立て、演じることで自己表現力を広げ、様々な英語表現に慣れ親しむようにする。

### 4 指導計画（全5時間）

|     | 学習活動  | 指導上の留意点（教師・ALT の支援）  |
|-----|---|--|
| 第1時 | <p>○単元のゴールを明確にし、見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デモンストレーションを見る。</li> <li>・これまでの英語表現を使って、オリジナルスキットを作ることを知る。</li> </ul> <p>○これまで学習した英語表現を振り返る。</p> <p>○グループに分かれ、スキットの場面を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【デモンストレーションのスキットの内容】<br/>ある日、5年1組に転入生が来ます。自己紹介をし、お互い好きな食べ物を聞いたり、好きなスポーツを聞いたりして友達になります。そして、友達みんなで転入生の家で誕生日会をすることになります。しかし、実は転入生の勘違いで誕生日は次の日でした。Wow!</p> </div>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デモンストレーションの中でこれまでの英語表現を使う。</li> <li>・デモンストレーションを何人かの児童と行うことで、児童に「やってみたい」「自分にもできる」と意欲を持たせるようにする。</li> <li>・絵カードを使い、既習の英語表現を振り返る。</li> </ul> |
|     | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>Why don't you come to my house?</p>  <p>デモンストレーション</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>Yes!</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>What did she say?</p>  <p>英語表現の振り返り</p> </div> </div> |  |

|            |   |  |
|------------|---|--|
| <p>第1時</p> | <p>おもしろそう</p> <p>友達とゲームセンターに行くのってどうかな？</p> <p>ナイス</p>  <p>スキットの場面を設定</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキットの場面を決める時は、各グループを回り、話し合いが進んでいないグループには声をかけ、楽しく話し合いができるようにする。</li> <li>・スキットのイメージが膨らむようなアドバイスをする。</li> </ul>  |
| <p>第2時</p> | <p>○シナリオを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面、登場人物、役割分担をする。</li> <li>・グループでスキットの全体像を考え、シナリオを作る。</li> </ul> <p>○これまで学習した英語表現を振り返る。</p>  <p>スキット作りのモデル提示</p>  <p>実践しながらシナリオ作り</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習した英語表現を中心にシナリオを作るように進める。</li> <li>・シナリオ作りは、文章を日本語で書いていくのではなく、英語で会話をし、実践しながら組み立てさせる。</li> <li>・学習していないことでも言ってみよう。英語表現がある時は、ALTと担任で簡単な表現にして教える。</li> </ul> |
| <p>第3時</p> | <p>○オリジナルスキットの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力して練習する。</li> </ul> <p>Good! Let's go zoo!</p>  <p>OOTeacher Let's go zoo! OK?</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習していないことでも言ってみよう。英語表現がある時は、ALTと担任で簡単な表現にして教える。</li> <li>・英語表現に行き詰まっている児童にアドバイスをする。</li> <li>・相槌をうちながら相手の話を聞くようにさせ、ジェスチャーもつけて演じさせる。</li> </ul>                 |
| <p>第4時</p> | <p>○オリジナルスキット発表会のリハーサルをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスを受けて改善し、完成させる。</li> </ul> <p>Let's go zoo ♪</p>  <p>Go straight ♪</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループのスキットを見てアドバイスをする。</li> <li>・観る人を意識して演じられるようにする。</li> <li>・本番までお互い、観られないように練習させる。</li> </ul>   |
| <p>第5時</p> | <p>○オリジナルスキット発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎にオリジナルスキットを発表する。</li> <li>・感想を交流する。</li> <li>・単元の振り返りをする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各スキット終了後に、良かったところや感想を発表させる。</li> <li>・単元全体を通して振り返らせる。</li> </ul>   |

## 5 本時の学習 (5/5)

### (1) 本時のねらい

○オリジナルスキットを通して、思いを伝え合い、積極的にコミュニケーションを楽しんでいる。




○発表での会話を聞きながら、相槌を打ったり拍手をしたりしながら会話を楽しんでいる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 本時の授業仮説

発表会において、自分たちでスキットの場面を設定し、会話を想像しながら組み立てたスキットを実際に演じることで、伝わる達成感を味わうことができ、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむようになるであろう。

(3) 本時の展開

| 授業の流れ                  | 子どもの活動  | HRT の支援   |
|------------------------|---|---|
| <p>Greeting</p>        | <p>1 はじめの挨拶をする。<br/>Hello. T-sensei and A-sensei<br/>I'm good. (fine, happy, ok, hungry..etc)<br/>It's sunny. (cloudy, rainy..etc)<br/>It's Friday.<br/>It's January twenty-seventh.</p> <p>2 グリーティング・チャンツをする。<br/>・体でリズムをとりながら発音する。</p>  | <p>○笑顔で挨拶をし、楽しい雰囲気を作る。<br/>Hello, everyone.<br/>How are you today?<br/>How's the weather today?<br/>What day is it today?<br/>What's the date today?</p> <p>○教師と児童が向かい合い行う。教師は英語を話すモデルとして楽しく元気よく行う。</p> |
| <p>Warming up</p>      | <p>3 友だちとショートコミュニケーションをする。<br/>・友達とあいさつをし、今日の気分を尋ね、一つ質問をし合う。<br/>Hello! How are you?<br/>What _ do you like? I like _ .<br/>Bye!</p>   | <p>○今回は「好きなキャラクターは何ですか?」と質問させる。</p> <p>○Greeting chants と違い、日常会話のようにリラックスしておしゃべりするように行わせる。また、相槌なども積極的に活用させる。</p> <p>○ジェスチャーを交え、児童にどんな話しをしているか気づかせる。</p>   |
| <p>Main Activities</p> | <p>5 今日のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これまでに学習した英語表現を使って作ったオリジナルスキットを発表しよう。</p> </div> <p>6 グループに分かれ、発表の練習, 準備をする。</p>   | <p>○自信を持ってスキットを発表することができるように各グループを回って声かけをする。</p>  |



7 オリジナルスキット発表会をする。

Hello.  
Let's go  
Christmas  
party!

Hello.  
OK!  
Let' go.

ジャ〜ン!  
It's my  
room.

Wow!  
Nice.  
Cool.

Go McDonald's.  
I will pick you up.

発表の中のよかった表現をみんなで体験

Looking back

8 本時の学習を振り返る。  
・振り返りカードに、自分が進んで学習したこと  
や友だちのよいところについて書き、発表する。

9 終わりの挨拶をする。  
Thank you very much, T-sensei and A-sensei.  
Good-bye.

○気持ちを込めて、自然な会話  
の中で台詞が言えるようにす  
る。

○グループの発表が終わると  
に感想を発表させる。

○スキットを鑑賞した児童に、  
発表したグループのスキット  
の内容を質問したり、習って  
いない英語表現が出てきた時  
は、全体で確認したりする。

○発表したグループのよかった  
英語表現やジェスチャーを紹  
介して、みんなにも表現させ  
る。

○自分がかんばったことや友だ  
ちのかんばりを発表させる。

○終わりの挨拶をする。  
That's all for today.  
Good-bye, everyone.  
See you next time.

(4) 児童が創作したオリジナルスキットの内容

|   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| <p><b>題「クリスマスパーティー」</b><br/>友達4人でクリスマスパーティーを開き、食事やゲームをして楽しみます。プレゼント交換でプレゼントを忘れた子がいて大騒ぎ。</p>           | <p><b>題「ゲームセンター」</b><br/>ゲームセンターでモグラ叩きをします。でも、なぜか男の子の所にモグラがでてきません。実は過去にゲーム機を蹴ってしまって機械が怒っているようです。</p> | <p><b>題「お泊まり会」</b><br/>明日は学校が休みだと思い、子どもたちがお泊まり会をします。ところが次の日の朝、母に起こされ、今日は学校の日だと知ります。びっくり仰天！Wow</p>        | <p><b>題「サンタは・・・」</b><br/>サンタがプレゼントを届けに来たのですが、不審者と間違えられ警察に通報されます。まさかの“サンタ警察につかまる事件”<br/>Oh, my goodness!</p> |
| <p><b>題「野菜を育てたら」</b><br/>野菜の種を買いに行き植えます。ある日、ジョロで水やりをしていると水がなくなり、「ホースを取ってきて」と頼みます。その子が連れてきたのはなんと馬！</p> | <p><b>題「夜の動物園」</b><br/>子どもたちだけで夜の動物園に出かけます。みんなで懐中電灯片手に進んでいきます。最後に出くわした生物は、なんとタイガーならぬタイガーマスク！Wow</p>  | <p><b>題「おかしな店員」</b><br/>ファストフード店に行くとき、注文と全然違うことを言うおかしな店員に出会ってしまいます。必死に注文するのですが伝わらず。<br/>Oh, Bad day.</p> | <p><b>題「ドライブスルー」</b><br/>友達に電話をかけ誘い、一緒に車でドライブスルーに出かけます。お金を払おうとすると財布がないことに気づきショック！家に忘れてしまったようです。</p>         |

## 6 授業仮説の検証

本時の授業仮説の検証は、授業観察、振り返りワークシートのコメント、授業後の児童の自己評価を基に行う。

### 【本検証授業仮説】

発表会において、自分たちでスキットの場面を設定し、会話を想像しながら組み立てたスキットを実際に演じることで、伝わる達成感を味わうことができ、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむようになるであろう

表2の授業後の自己評価の結果から、「①自分から積極的に会話できましたか」の質問に「できた・どちらかと言えばできた」とすべての児童が回答し、第1時の自己評価の結果から上昇し、全員が積極的に会話をするのができたと感じていることが分かる。更に、「②英語で会話をして楽しかったですか」の質問でもすべての児童が「楽しかった・どちらかと言えば楽しかった」と回答していることから、自分たちで場面を設定し、会話を想像しながらオリジナルスキットを作り演じたことで、児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しんだことがわかる。

表2 授業後の自己評価の結果

| 自己評価の質問項目           | できた<br>楽しかった |     | どちらかと言え<br>ばできた<br>楽しかった |     | どちらかと言え<br>ばできなかった<br>楽しなかった |    | できなかった<br>楽しなかった |    |
|---------------------|--------------|-----|--------------------------|-----|------------------------------|----|------------------|----|
|                     | 第1時          | 本時  | 第1時                      | 本時  | 第1時                          | 本時 | 第1時              | 本時 |
| ①自分から積極的に会話できましたか   | 59%          | 88% | 34%                      | 12% | 7%                           | 0% | 0%               | 0% |
| ②英語で会話をして楽しかったですか   | 91%          | 93% | 9%                       | 7%  | 0%                           | 0% | 0%               | 0% |
| ③友達と協力して活動できましたか    | 84%          | 88% | 16%                      | 12% | 0%                           | 0% | 0%               | 0% |
| ④自分の考えや気持ちを伝えられましたか | 53%          | 81% | 37%                      | 16% | 10%                          | 3% | 0%               | 0% |
| ⑤前時の英語表現を覚えて言えましたか  | 21%          | 84% | 72%                      | 16% | 7%                           | 0% | 0%               | 0% |

また、資料1の授業後の振り返りワークシートから、児童は、スキットを実際に演じたことで、相手に英語が伝わる喜びや達成感を味わうことができ、英語でコミュニケーションを楽しんだことが分かる。

これらのことから、プロジェクト型外国語活動を行ったことで、児童の伝えたい、相手の話を聞きたいというコミュニケーションへの意欲が高まり、一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむことができたと考える。

資料1 振り返りワークシート（本検証授業）

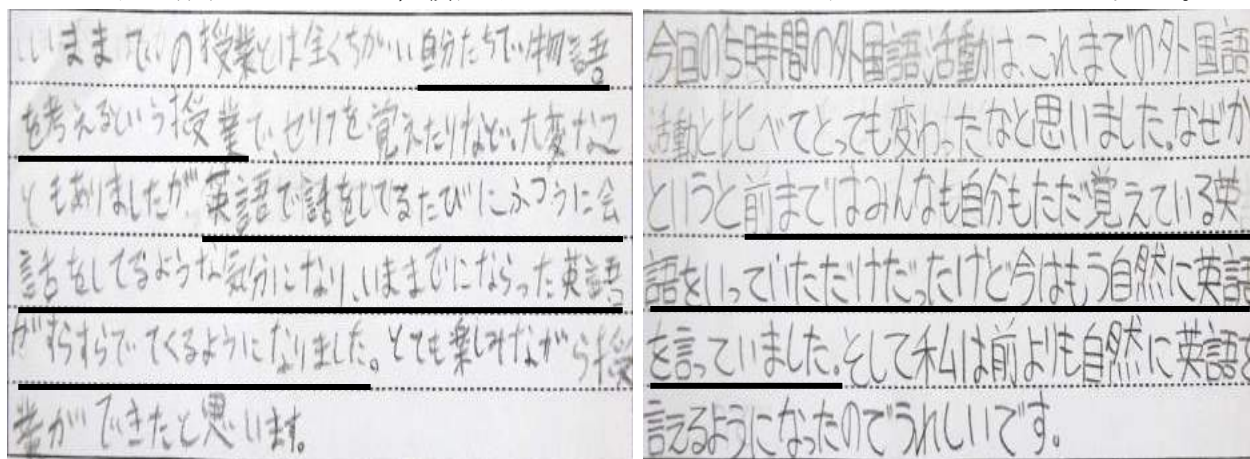
## V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前（10月）・事後（1月）の外国語活動の意識アンケート、児童の振り返りワークシートの記述や自己評価、授業観察に基づいて考察を行う。

### 1 児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむ手立てとして、プロジェクト型外国語活動は有効であったか

児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむ手立てとして、従来のプログラム学習にプロジェクトを加え、単元を通して課題を解決していくプロジェクト型外国語活動を展開した。資料2の児童の感想に、「自分たちで考える授業になり、英語で話すたびに普通に会話をしている気分になり、今までに習った英語がすらすらでできた」や「今までは、ただ覚えて言うだけだったけど、自然に英語が言えるようになった」などがあり、児童が主体的に活動したことがわかる。その他にも、「オリジナルスキットを作ることによって積極的に自分から英語でコミュニケーションをすることができた」や「自分たちで考えながら話し合いをしたのでとても楽しかった」などの感想があった。児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定したことで、他者に自分の思いを伝えることの楽しさや難しさを体験することを通して、児童一人一人が積極的に自分の思いを伝えようとする姿が見られた。

今回の活動を通して、既習表現を活用したり、相槌やジェスチャー等を用いたりしてコミュニケーションを図る体験をしたことで、積極的にコミュニケーションを楽しむことができたと考える。



資料2 単元終了後の児童の感想

(1) 外国語活動に意欲的に取り組むことができたか

検証前のアンケートで、「前時に学習した英語表現を次時に言うことができますか」の問いに「できる」と答えた児童は、わずか3%しかいなかったが、プロジェクト型外国語活動実施後は全員が「前時に学習した表現が言える」と答えた。その理由として、ほとんどの児童が、「発表という目標があり、学校では休み時間や放課後を使って練習して確かめ合った」「英語が楽しくなって家でも英語を話す練習をするようになった」と答えている。このことから、事前にプロジェクトを提示して、児童に場面を設定させたことで、単元のゴールが明確となり、児童一人一人が意欲的に活動に取り組んだと考える。

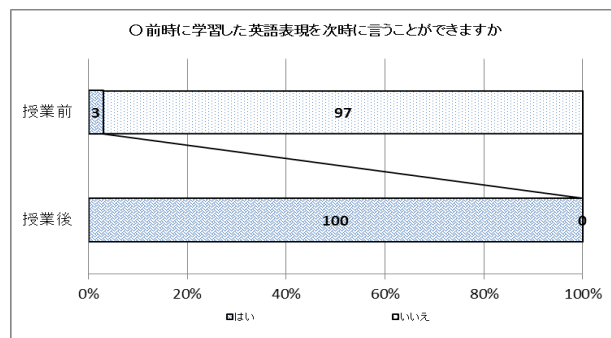


図4 事後アンケートの結果

(2) 児童一人一人が積極的にコミュニケーションを楽しむことができたか

プロジェクト型外国語活動を展開したことで、単元のゴール達成に向けて児童がグループで協働して活動に取り組む姿が見られた。また、第5時のオリジナルスキット発表会に向けて、スキットのテーマや対話の内容を児童の自主性にまかせたことで、これまでに学習した英語表現を駆使してスキット作りに挑戦する姿が見られた。図5のアンケートからも分かるように、「自分から積極的にコミュ

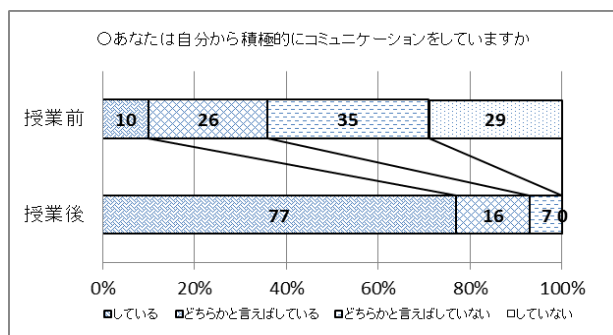


図5 事後アンケートの結果

ニケーションをしている・どちらかと言えばしている」と答えた児童は、検証前は36%であったが、検証後は93%に上昇した。更に、検証前はほとんどの児童が会話することが苦手と答えていたが、検証後は約8割の児童が英語で会話することはとても楽しいと答えた。(図6)

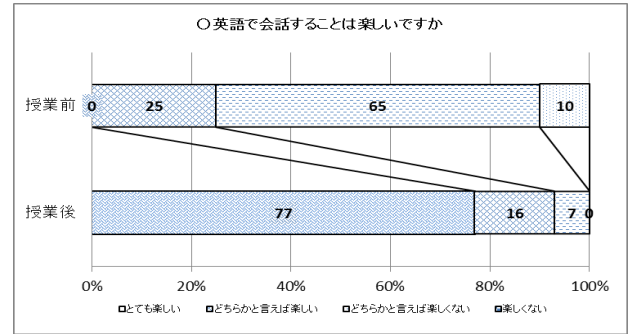
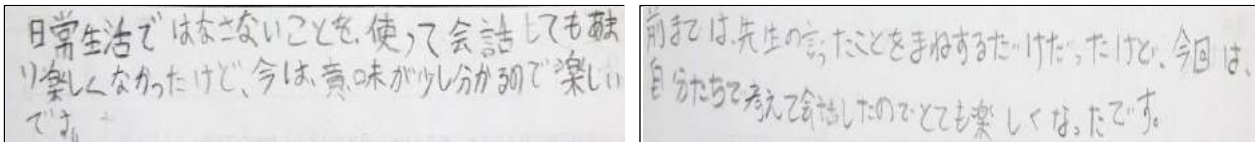


図6 事後アンケートの結果

資料3は、事後アンケートの児童の記述である。これらの記述から、これまでの外国語活動が形式的なコミュニケーションとなっていて、児童の日常生活と会話が結びついていなかったことがわかる。今回は、児童主体で活動を展開し、児童同士で日常生活に即した場面で会話をしたことがコミュニケーションを楽しむことに繋がったと考える。

今回のプロジェクト型外国語活動は、自分たちで場面を設定し、会話を想像しながらオリジナルスキット作りをしたことによって、学習した英語表現が児童の日常生活と結びつき、意味のあるコミュニケーションとなり、児童がより積極的にコミュニケーションを楽しむことができたと考える。



資料3 事後アンケートの記述

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) インプットした英語表現を何度もアウトプットすることで児童が自信を持ち積極的にコミュニケーションを楽しむことができた。
- (2) 同じ表現をいろいろな場面で使う機会を作ったことで、一つの場面でなく、日常の様々な場面で活用できることを子どもたちが体験することができた。
- (3) 一時間一時間の活動を一つの単位として繋げ、プロジェクト型学習を展開したことで、児童が積極的にコミュニケーションを楽しむことができた。
- (4) 児童主体の活動にしたことにより、次期学習指導要領での教科化に対応できる授業作りとなった。

### 2 今後の課題

- (1) 単元構成の更なる工夫をし、年間計画へ位置づける。
- (2) 次期学習指導要領を見据えた5領域(聞くこと、読むこと、話すこと「やりとり・発表」、書くこと)を基にしたプロジェクト型外国語活動を実践する。

### 〈主な参考文献〉 (※発行年の古い順)

- |           |                                       |          |       |
|-----------|---------------------------------------|----------|-------|
| 文部科学省     | 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』                  | 東洋館出版社   | 2008年 |
| 文部科学省     | 『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』       |          | 2011年 |
| 東野裕子 高島英幸 | 『プロジェクト型外国語活動の展開－児童が主体となる課題解決型授業と評価－』 | 高陵社書店    | 2011年 |
| 日本教育評価研究会 | 『指導と評価』                               | 日本図書文化協会 | 2011年 |
| 高島英幸 著    | 『児童が創る課題解決型の外国語活動と英語教育の実践』            | 高陵社書店    | 2014年 |